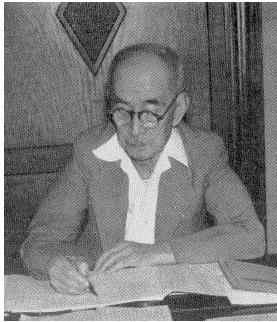


改訂版 鈴木ビネー知能検査



原 著 者 鈴木治太郎 〈1875-1966〉

鈴木ビネー法
の 遍 歴

1. 草案作成期（大正 9 年～大正11年）
2. 第 1 次標準化実験（大正11年～大正14年）
3. 客観的根拠の検討（大正14年～昭和 5 年）
4. 第 2 次標準化実験（昭和 5 年～昭和11年）
5. 鈴木ビネー尺度の完成（昭和11年～昭和16年）

《参考資料》「鈴木先生と知能測定尺度」米寿祝賀記念行事実行委員会編（ナニワ印刷）



CATALOGUE

改訂版著者



小宮 三彌

上越教育大学名誉教授
健康科学大学教授

2003年3月に、障害のある児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じて適切な教育支援を行う「特別支援教育」への転換の方向が示されたことで、このような子どもたちや学校への適応が困難な子どもたちに対する効果的な教育支援体制の整備が急ピッチで進められている。実際の指導に当っては、一人ひとりの子どもの実態が大きく異なるので、個に応じた教育が基本となる。その際個性の重要な側面であり基礎的な能力である知能の特徴をアセスメントで十分に把握し、指導に生かすことが大事である。ビネー式知能検査の精神にもとづいている鈴木ビネー式知能検査は、日常の具体的な素材にもとづいて作成された知能総合検査であるので、人間の一般的包括的な知的能力が測定でき、しかも検査時間も短く使いやすいことである。このように子どもたちの知的発達をトータルに捉えることに優れていることで多方面の実践の場で大いに活用されることを願っております。



塩見 邦雄

兵庫教育大学名誉教授

子どもたちは本当に多くの能力を潜在的に持って生れてきます。私たち大人が、うまく指導してあげると、子どもたちはそれらの「才能」を開花することができます。

私たちは、子どもたちが潜在的に持っている才能を「消去」しないような教育的配慮をすることが是非とも必要です。そのためには、子どもたちの持つ「力」についての的確なアセスメントを必要とします。改訂版鈴木ビネー式知能検査は、幼い子どもたちの発達のな知能能力のアセスメントに意味のある総合的な情報を提供できます。

また、もちろん、高学年の子どもたちの知的能力の総合的な情報も提供できます。

改訂版鈴木ビネー式知能検査は、人間尊重の教育を背景にして、臨床的かつ教育心理学的活用の一つの有効な手段として活用が可能です。私は、皆様とともに、本検査を通して、子どもたちの更なる発達に寄与したいと思っています。



末岡 一伯

北海道教育大学名誉教授
旭川大学教授

就学指導等の巡回相談時のアセスメントでは、限られた時間に見当をつける検査が求められます。それ故に古い検査と知りつつも、30分ほどで測定でき、個別検査である「鈴木ビネー式知能検査」は、重宝にされてきたという声を聞きます。この検査の原型を守った改訂版が刊行されます。

この作業に携わることが出来たことは、心理テストを専門とする者にとっては望外の光栄なことです。この改訂版をさらに精度の高いものにしていくためには、ユーザーである皆様のご協力なくして、それは達成できません。今後のご協力を切に願うところであります。



置田 幸子

置田児童教育研究所長

鈴木治太郎博士は、アルフレッド・ビネーの創見の精神に基づき、それに修正を加えて、わが国の子どもの知能発達の程度を測定・診断する「個別知能測定尺度」の創設を目指し、艱難辛苦の末、これを完成されました。

私は、過去38年間に「鈴木ビネー式知能検査」をおよそ37,000ケース程実施してきました。その他の検査も種々経験しましたが、本検査法に勝るものはないとの確信と、揺るぎない信頼を抱くに至りました。

30年程前、図版や用具が当時の社会状況にそぐわないことから、大阪にあった出版社「東洋図書」に改訂を申し入れたことがあります。しかし、鈴木治太郎博士から「改訂は断じて許さない」と言明されているのでその件は受け入れられない、とのことでした。

ところが、このたび鈴木治太郎博士のご子息、鈴木治夫氏から許可を得ることができて、改訂版発行の運びとなった次第です。

改訂は、あくまでも原著者鈴木治太郎博士の精神に沿って最小限の枠で検討しました。各方面でのご活用を念じています。



原 著 者 鈴木治太郎
著 者 鈴木ビネー研究会 委員
小宮三彌、塩見邦雄、末岡一伯、置田幸子

適用範囲 2歳0ヵ月～18歳11ヵ月
(追補版にて、23歳まで適用範囲の拡張を予定)

所要時間 35分～50分

2014年4月1日より	(本体価格 + 消費税 8%)
価 格	用 具 54,000円 (50,000 + 4,000)
	検 査 法 4,937円 (4,571 + 366)
	用紙〔20人分〕 4,115円 (3,810 + 305)
	セ ッ ト 63,052円 (58,381 + 4,671)
	〔用具、検査法、用紙 含む〕

※ 詳細は古市出版ホームページ <http://furuiti-book.com> にて、ご確認下さい。

【発 行】
古 市 出 版 (鈴木ビネー研究会事務局)
東京都葛飾区奥戸5-7-8
Tel 03(5672)3534
Fax 03(5672)3544
<http://furuiti-book.com>

【発売元】
(株)岡田総合心理センター
大阪府中央区上町1-19-17
Tel 06(6762)0048
Fax 06(6762)0040
<http://www.okada-shinri.com>

鈴木ビネーとは

鈴木ビネー法の知能観

鈴木治太郎博士は、鈴木ビネー法で測定しようとする知能の働きについて「A.ビネーはこれを判断と定義し、この判断をある時は常識といい、あるいは実行性といい、あるいは創始性であるといった意味は、ビネー法を利用する者の念頭におくべき重要な言葉であると思う。

私の解釈では、常識とは正常なる判断である。特殊な判断ではなく、正常な人々の正常なる判断と解釈する。また実行性とは、いろいろの事件に処して実行可能な力である。この実行性という言葉は、ビネーの測定しようとした知能は単なる口耳の智ではない。実行可能な実際的な能力であることを表現してあまりある言葉である。この実行的能力は、正常な確実なる判断の基礎の上に立つことを要求する。また最後の創始性というのは、人々が新しい事件に処してこれに正しく順応していく力である。」と述べている。（鈴木治太郎著より要約）

鈴木ビネー検査の特徴

- ① 子どもの知能を、検査への集中力を維持しながら短時間で測定できる。
- ② 問題に取り組む子どもの姿勢を尊重し、その特質を診ることを目的として、むやみに制限時間を設けていない。

改訂版発行の目的

2007年改訂版作成の目的

鈴木治太郎は、昭和31年版の序のなかで「私は、絶えずこの尺度の標準の正確度について自分の実験はもちろん、他の多くの有力な方々がこのスケールを利用して下さった実験結果を参考にしてその検証を続けているが、標準を改める点はいまなお発見しない。」

〈途中略〉

確かに「鈴木ビネー式知能検査」は、鈴木が二十数年の歳月をかけ、16,000名以上の精密な個別測定の実験検証を継続したものであることから、実際使ってみると正確で有効であったし、検査の所要時間も短いので子どもがテストに集中している間に終わられるなどの理由から根強く使用されてきたテストである。

しかし、〈途中略〉この間の日本の社会状況は大きく様変わりし、子どもたちの発達加速化現象も著しく、その結果いまの検査問題は現代の子どもや成人の知能発達を測定するには不適當で、時代と乖離したものとなっている。時代的に受け入れられない問題内容や現代の生活様式に当てはまらない絵画や用具類も見られる。

以上のような理由から、現代の子どもたちの知能発達を測るにふさわしい検査に一新するため、標準化を基本から見直すことが今回の目的である。（小宮三彌筆より抜粋）

「改訂版 鈴木ビネー検査法」
目 次

はしがき

改訂版発行に寄せて

第1章 ビネー知能検査の特徴

- 1. ビネー知能検査が生まれるまで
- 2. ビネー知能検査の誕生

第2章 改訂版鈴木ビネー検査の特徴

- 1. 鈴木治太郎のプロフィール
- 2. 鈴木ビネー検査の特徴
- 3. 改訂版 鈴木ビネー検査作成の目的
- 4. 新問題の作成と用具の一新
- 5. 全検査問題別使用用具一覧表

第3章 検査実施上の諸注意

- 1. 検査者の条件と心得
- 2. 測定に要する用具・用紙など
- 3. 記録用紙の記入の仕方
- 4. 採点方法および合否の記録例
- 5. 検査済み記録用紙の整理・保管

第4章 検査実施・検査問題

- 1. 適用年齢
- 2. 検査者が実施前に読んでおくこと
- 3. 検査者が実施前に準備しておくこと
- 4. 問題「5つのおもり」の区別の仕方

検査問題（第1問～第72問）

第5章 検査結果の処理方法

- 1. 生活年齢・精神年齢・知能指数の算出方法
- 2. 生活年齢が13歳以上の子どもの知能指数算出

第6章 改訂版 鈴木ビネー検査の標準化

- 1. 1956年修正版の標準化過程
- 2. 2007年改訂版の標準化調査
- 3. 統計的特性

参考文献/引用文献

《別表1》改訂版 鈴木ビネー検査の問題項目と通過率

《別表2》改訂版 鈴木ビネー検査の得点・IQ換算表

以上



（検査法、記録用紙、図版、用具部品の一部映像です。）